

Title	ワーレン・C・スコヴィル 少数者の移住と技術の普及
Sub Title	Warren C. Scoville, "Minority migrations and the diffusion of technology"
Author	渡邊, 国広
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1952
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.45, No.11 (1952. 11) ,p.810(72)- 811(73)
JaLC DOI	10.14991/001.19521101-0072
Abstract	
Notes	論文紹介
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19521101-0072">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19521101-0072</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文紹介

ワレン・C・スコヴィル

『少数者の移住と技術の普及』

(Warren C. Scoville, "Minority Migrations and the Diffusion of Technology", Journal of Economic History Vol. II No. 4 Fall pp. 347-360)

技術の變化は一體如何なる経過を辿るものか。通常この過程は發明・採用そして普及という三つの段階に分割されるが、最後の普及の過程に關しては從來少しも知られていないから、技術が普及して行つた状況を検討して見たい。この場合外國職人の招聘に依つて新技術が移入され、又時には旅行者が外國技術の導入に貢献したこともあつたが、然し迫害を避けて亡命した新教徒が技術の傳播において果たした役割には遠く及ばなかつたから、新教徒が媒介した二つの場合について技術發展の経過を示すことにする。

一五八五年にアントワープが陥落したが、これは北ネーザerlandにとつて劃期的な出来事であつた。スペインの重壓を避けて新教徒はポランダ、ジランダの二地方へ移住し、かくして州内の各地に早くも毛織物生産の展開を見た。特にアムステルダム、ロッテルダム、ハーレム及びユトレヒトの繁榮が目

覺しく、前貸制に依つて新種の毛織物が大量に生産されるようになったが、オランダ以外の諸地方に亡命した新教徒の活動に關しても亦刮目すべきものがあつた。

例えばイギリスに來住した新教徒についてであるが、亡命者はロンドンに約一萬人、ノーリッチに四千人から六千人、ユルチェスターに約千三百人といつた具合に大舉して來住し、又サントドウィッチ、カンターベリー、サザンプトンその他にも多く娈集して爾後の經濟發展における重要な指導者となつたのであつた。イギリスに幾個もの梭を持つ複雑な織機を紹介したのは實にこの新教徒であり、又仕上や染色の設備が完成されて、毛織物が未仕上の儘で輸出されなくなつたのも同じ新教徒の重大な功績の一つに屬したのである。移住者は多く同職組合の束縛を避けて農村に進出し、同職組合が許可した數を相當に上廻る大量の職人を前貸制に依つて統率し、薄手の毛織物の生産に乗出したばかりではない。この人々が傳えた生絲を繰る新方法はイギリスにおいて早くも實用に供され、絹織物の生産が急速に進展し、例えばロンドンにおいては在來の毛織物や麻織物の生産を壓倒する程であつたし、又メードストーンは縫絲の産出地として著名となり、バインステイブルやデボンシャーにおいてはアントワープから輸入した絹絲を材料とする上質レースが盛んに製造されるようになった。亡命者はこのほかに窓ガラスやガラス製品の工場をも創設し、又製紙技術の向上に資すること多大であつた。イギリスにおける金屬工業の發展に對する亡命

者の功績は無視し難いし、又多くの寶石職人の來住を機に貴金屬の細工技術も大いに進歩した。尙農業に對する貢獻については肥料の使用が教示されて生産が増大しただけではない。亡命者に依つて新種の根菜や野菜が紹介された程であり、技術の進歩に對する亡命新教徒の寄與はイギリス一國について見ても實に華々しくもあり又かくも多方面に亘つていたのであつた。

迫害を避けて國外に散住したユグノー教徒も亦技術の傳播に貢獻した重要な他の一團であつた。亡命者は高度な技術を移住先において活用し、かくして亡命者の散住した如何なる地域においても技術の顯著な發展を見た。一六八五年のナント勅令廢止はフランス經濟を相當に衰退させたが、他面において技術の廣範な普及というかかる大きな結果を伴つたのであつた。

例えば、ドイツの各地に散住した亡命者がフランスにおいて早くから著名であつたあらゆる種類の工業生産を開始してゐた。亡命者はドイツの諸都市に絹織物工場を創設したし、またこの國におけるリボン・手袋・レース・毛や絹の靴下・フェルト帽・敷物等の製造の開始も同じ亡命者に纏わる重要な功績の一部であつた。選舉侯も亦フランスからの亡命者に對し絶大な援助を興え、經濟活動に對する支援は三十年戦争に依る荒廢が甚だしかつた南ドイツにおいてとくに強力であつたが、亡命者の大部分が農民であつたため、工業發展の萌芽が見られても、その後における経過は必ずしも順調なものではなかつた。寧ろドイツの場合、亡命新教徒に依る影響は農業面において一層著し

く、新教徒の來住を機に耕地は擴大し、桑・煙草・薔・アスパラガス・花キャベツ・馬鈴薯・高級果樹・大青等が紹介されてドイツ農業は好況を迎えることが出來たのであつた。

亡命者の導入に依つてイギリスも亦多大の影響を蒙つた。早くもロンドンやカンターベリーにはツール・リヨン・ニームの絹織物職人が來住し、ダマスカス緞子・琥珀織・金襴・波紋布・縞子・絹天等が出來るようになった。イブスウィッチにおいては帆布が作られ、冠ガラスや板ガラスの工場が増設された。キャラコ擦染法・良質紙の製法も同時に傳わり、當時イギリスにおいてはフランスの技術が非常に尊重され、フランス語の名入がなければ何も賣ることが出來ない」程であつたのである。

(渡邊國廣)

ヴァレリ・モラン

『第十六世紀のメードストーンに對する』

亡命新教徒の定住』

(Valerie Morant, "The Settlement of Protestant Refugees in Maidstone during the Sixteenth Century", Economic History Review Second Series, Vol. IV, No. 2, 1951, pp. 210-214)

スペイン王フィリップ二世の迫害を避けてネーザerlandの新教徒は大舉各地に散住した。これ等の亡命者は一般にリンネ